

洞爺湖町の教育

令和 5 年度



平成 23 年に土木遺産に選奨された虻田発電所

洞爺湖町教育委員会

目 次

洞爺湖町民憲章・洞爺湖町の概要・町章・町の木・町の花	1
第2次洞爺湖町教育目標と教育ビジョン（改訂版）	2
I 教育行政	
1 歴代委員長・教育長 現教育委員	3
2 教育委員会行政機構	4
3 令和5年度教育行政執行方針	5
4 令和5年度の教育費等予算	10
II 学校教育	
1 洞爺湖町立小中学校一覧	11
2 児童・生徒数一覧	11
3 学校紹介	12
4 特別支援学級在籍状況	17
5 就学援助状況	17
6 育英資金	17
7 その他の支援状況	19
8 学校給食	20
III 教育・保育施設等	
1 町立保育所	21
2 子育て支援センター	22
3 私立幼稚園	23
IV 社会教育	
1 令和5年度社会教育推進事業	24
2 社会教育関係施設概要	30

【表紙写真】土木遺産「虻田発電所」（平成23年土木学会選奨）

虻田発電所（出力19,500kw、使用水量36.06 m³/s、有効落差64.31m）は、北炭、日鋼、日鉄、室電の4社が設立した洞爺水電組合によって建設され、1937（昭和12）年8月に着工し、1939（昭和14）年10月に運転が開始されるまで2年2か月という短期間で完成しています。運転開始後は、軍需産業や戦後の産業発展を支える重要電源として、室蘭市に送電されました。経営は日本発送電（株）、北海道電力（株）を経て、2001（平成13）年12月に「ほくでんエコエナジー（株）」が譲り受け、現在運営しています。

この発電所は、市街地の真ん中であって、しかもわずか260mの放水路で海に放水している、全道でも珍しい発電所です。洞爺湖の湖面が標高84mと高く、海までの距離が近いことに着目し、湖と噴火湾との落差を発電に利用しています。

洞爺湖町民憲章

わたしたちは、美しい洞爺湖、みのり多き台地、さち豊かな内浦湾にいだかれた洞爺湖町の町民です。

恵まれた環境と先人の偉業を受けつぎ、洞爺湖町民としての誇りをもち、豊かで美しくしあわせな未来を築きます。

○豊かな自然と郷土を愛し、美しいまちをつくります。

○地域に根ざした産業を生み育て、活力あるまちをつくります。

○人々が輝き交流と文化が香る、生涯学習のまちをつくります。

○健やかな心と体を育て、生きがいのあるまちをつくります。

○人権を大切にし、安全で平和なまちをつくります。

洞爺湖町の概要

北海道南部の「支笏洞爺国立公園」区域にあり、総面積は181平方キロメートルあります。平成18年3月27日に虻田町と洞爺村が合併し、「洞爺湖町」として生まれ変わりました。

東には伊達市、壮瞥町、西は豊浦町に接し、湖（洞爺湖）と山（有珠山）と海（噴火湾）に囲まれた自然豊かな町です。

この地域は気候温暖な地方で北海道の湘南地方と呼ばれ、交通の便もよく観光資源にも恵まれていることから北海道有数の観光地となっています。また、漁業、農業も盛んな町となっています。

町章



洞爺湖町の「と」の字をモチーフに「恵の洞爺湖」と「澄みきった大空」を図案化しました。雄大な風景をデザインに取り入れ、洞爺湖町の「元気」を表現しました。

町の木・町の花

町の花 「すみれ」
「つつじ」

町の木 「さくら」
「ななかまど」

第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン 改訂版

(計画期間：平成29年度～令和8年度)

【教育理念】

- 自然豊かな大地で、自立の精神にあふれ、夢や希望の実現に挑戦し、これからの社会を担う人を育む
- 心豊かに、ともに支え合い、ふるさとに誇りを持つ人を育む

【教育目標】

- 確かな学力、健やかな身体、豊かな人間性を育み、自立した生き方を支える教育の推進
- 家庭・地域の教育力を育み、地域特性を生かし、社会全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進
- 社会教育・芸術文化・スポーツを通じ、協働的で潤いのある地域づくりのための生涯学習の推進
- 教育全体を支える自然、歴史、文化、産業等の地域特性を生かしたふるさと教育の推進

基本目標	基本方向	
基本目標1 SDGs・ESDの推進	基本方向1 SDGs・ESDの推進	視点1 SDGs・ESDへの対応
基本目標2 子育てをしやすい環境整備の推進	基本方向1 子育て支援対策の推進	視点1 子育て支援の充実
基本目標3 社会で生きる実践的な力の育成	基本方向1 生きる知恵につながる確かな学力を育む、自立した生き方を支える教育の推進 基本方向2 社会の変化に対応し、新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進	視点1 確かな学力の向上をめざす教育の推進 視点2 コミュニケーション能力を育む教育の推進 視点3 特別支援教育の推進 視点1 グローバル化への対応と地域間交流の推進（伝統や文化を大切にする教育、国際理解教育の充実及び地域間交流の推進） 視点2 防災教育、情報教育の充実 視点3 環境教育の推進 視点4 高等学校教育の確保
基本目標4 豊かな心と健やかな身体の育成	基本方向1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進 基本方向2 心身の健やかな成長を促す教育の推進	視点1 豊かな心を育む教育（道徳教育）の推進 視点2 読書活動の推進 視点3 体験的な活動の充実 視点4 生徒指導・教育相談の推進 視点1 体力・運動能力の向上 視点2 食育・健康教育の推進 視点3 福祉教育・ボランティア活動の推進 視点4 安全教育の推進 視点5 学校関連施設・設備の整備
基本目標5 信頼される学校づくりの推進	基本方向1 魅力ある学校づくりの推進	視点1 開かれた学校づくり 視点2 特色ある学校づくり 視点3 幼保・小・中・高の連携 視点4 教職員の資質・能力の向上等 視点5 学校力の向上
基本目標6 地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進	基本方向1 家庭教育力の向上への支援の充実 基本方向2 地域で子どもたちを育てる環境づくりの推進	視点1 家庭教育力の向上 視点1 地域の教育力の向上 視点2 子どもたちの安全を確保する体制づくり
基本目標7 生涯学習社会の推進	基本方向1・視点1 学んだ成果を生かす生涯学習の推進 基本方向2・視点1 潤いのある地域づくりを目指した社会教育の推進	基本方向3・視点1 文化・芸術活動の推進 基本方向4・視点1 健康づくり・スポーツ活動の推進

I 教育行政

1 歴代教育委員長・教育長、現教育委員

歴代教育委員長・教育長

旧 虻 田 町		旧 洞 爺 村	
教育委員長	教育長	教育委員長	教育長
佐々木正道 中野 俊雄 谷山 雄蔵 笠谷 教尊 金沢 清二 宮田 栄一 三浦 昭三 若狭 洋市 横山 正	佐々木正道 水合喜久男 石崎 美彦 岩崎 章 大和 茂 室谷 敏男 小弾正昭男 濱坂 優之 木村 利正	安住 尚志 佐長 眞夫 安住 尚志 志賀 辰雄 宮内 順一 蓮井 勇	佐長 眞夫 佐野 耕三 高橋 秋男 福司 重 桑原 敏
洞 爺 湖 町			
教育委員長		教育長	
蓮井 勇	H18. 5. 18～H26. 5. 17	木村 利正	H18. 3. 27～H20. 5. 17
岩原 義美	H26. 5. 18～H28. 5. 17	真屋 敏春	H20. 5. 18～H22. 2. 5
		綱嶋 勉	H22. 5. 18～H28. 5. 17
		※ 岩原 義美	H28. 5. 18～H28. 6. 13
		遠藤 秀男	H28. 6. 14～R1. 6. 13
		※ 岩原 義美	R1. 6. 14～R1. 6. 19
		皆見 亨	R1. 6. 20～R4. 6. 19
		渋川 賢一	R4. 6. 20～

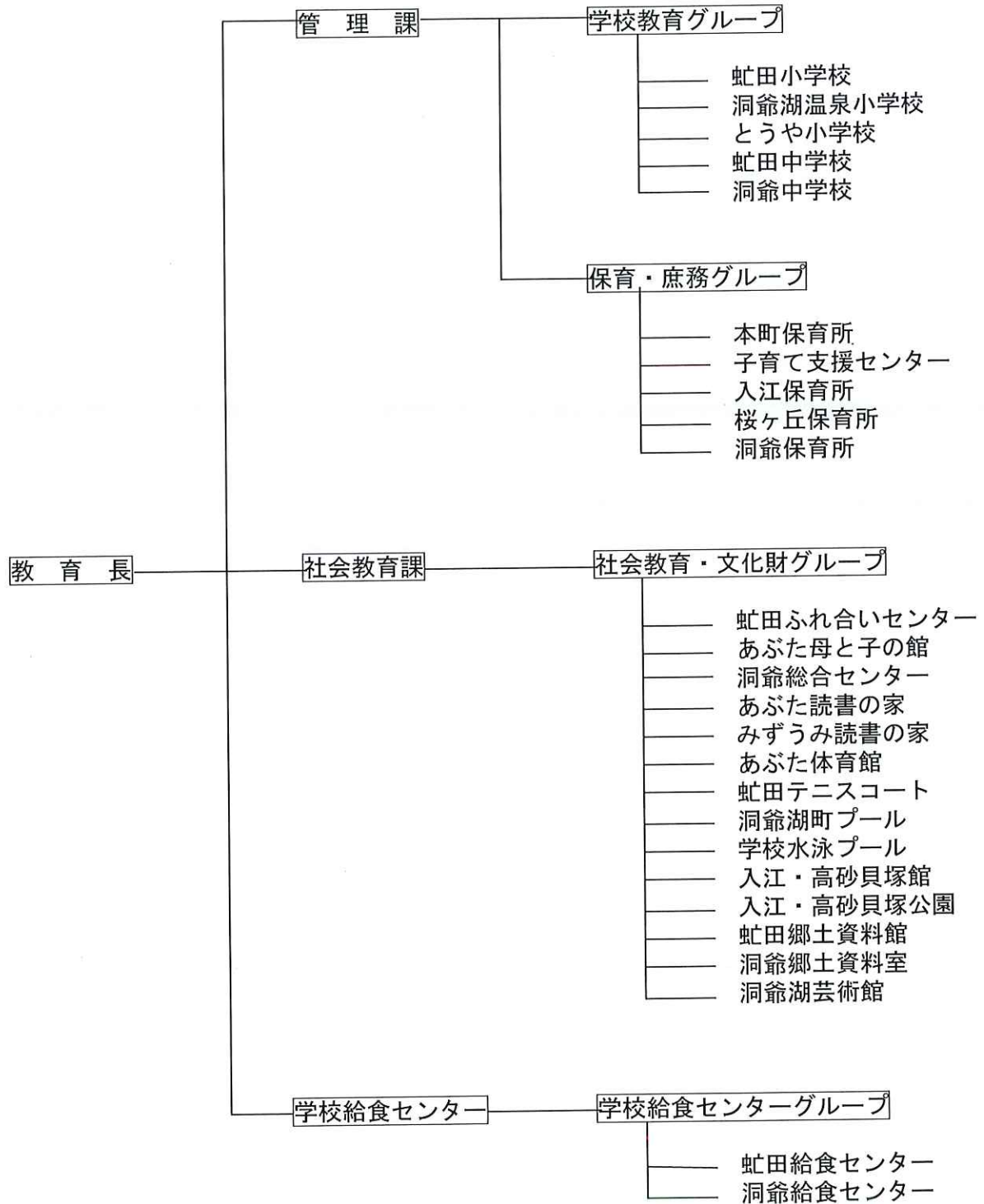
※ 職務代理者

現教育長・教育委員

役職名	氏 名	委員就任年月日	任 期	備 考
教育長	渋川 賢一	R4. 6. 20～	R4. 6. 20～R7. 6. 19	
委 員	吉田 聡	H26. 5. 18～	R4. 5. 18～R8. 5. 17	職務代理者
委 員	来栖 由喜	H26. 5. 18～	R4. 5. 18～R8. 5. 17	
委 員	岡本 里佳	H28. 5. 18～	R2. 5. 18～R6. 5. 17	
委 員	岩崎 義久	R3. 5. 18～	R3. 5. 18～R7. 5. 17	

2 教育委員会行政機構

(令和5年4月1日現在)



3 令和5年度教育行政執行方針

令和5年度の教育委員会所管の主要な方針について申し上げます。

全国的な人口減少や少子高齢化、ICT（情報通信技術）の進展、更には新型コロナウイルス感染症による生活様式の変容など、従来の経験や知識では将来を見通せない時代となっております。

このような中であって、子どもたちが社会で自立し生き生きと活躍できる力や、互いに支え合いながら、よりよい社会を築いていこうとする意欲や態度を育てていくためには、地域の多様な方々との連携・協働が大切であります。

本年度の教育行政の展開に当たっては、町民の皆さまの思いや願いを十分に踏まえるとともに、学校教育と社会教育とが連携し相互に補完し合いながら、様々な教育課題の解決に向けた取り組みを力強く推進してまいります。

では、令和5年度の主な施策と取り組みを「洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン」の体系に沿ってご説明申し上げます。

第1は、SDGs・ESDの推進です。

SDGs・ESDとは、子どもから大人までが地球規模の様々な課題の解決に向けて考え行動する目標と、持続可能な社会の構築を目指す総合的な学習・教育活動であります。

教育行政全般の推進に当たって、この理念を踏まえ各種施策の推進に努めます。

第2は、子育てをしやすい環境整備の推進です。

幼児期は人間形成の根幹をなす重要な時期であり、「洞爺湖町子ども・子育て支援事業計画」を踏まえながら、子どもたちが遊びや生活を通じて、様々な力の基礎を培うことができる保育を進めるとともに、幼保・小間の交流や小学校との滑らかな接続を重視した環境づくりに努めます。

本町保育所と入江保育所の統合については、利用者の利便性や公共施設の最適な配置といった観点を踏まえ、子育て関連施設と複合した施設として、みんなの森公園付近に新設することで、本年度は基本設計に向けた取り組みを進めます。

一時預かり保育事業については、継続して実施します。

また、子育て支援対策として、町内保育所等の利用者負担額（保育料）の全額無償化や中学校入学時における制服等の購入費用への一部助成を実施します。

洞爺地区等高校生通学費等助成事業については、範囲を拡大し町内全地区を対象とした助成事業を実施します。

町育英資金貸付及び給付事業については、更なる制度の周知を図りながら、引き続き、進学、就学の支援を行います。

第3は、社会で生きる実践的な力の育成です。

学ぶ意欲の向上と学習習慣の定着などを通じて確かな学力の育成に努めるとともに、豊かな人間関係づくりの基礎となるコミュニケーション能力などを育成することによって、社会の変化に主体的に対応し、新しい時代を自ら切り拓いていくための実践的な力の育成に努めます。

そのため、教育指導専門員、学習支援員、外国語指導助手（ALT）などを引き続き配置し、学校運営や

授業の充実に向けた取り組みを支援します。

学力向上については、洞爺湖町教育改善推進事業による取り組みや学校間の連携による授業改善、町単独の学力検査、各種検定料助成の一部拡大などを実施します。

また、小学校、中学校ともにGIGAスクール構想のもと、ICTを活用した教育の充実に引き続き努めます。

特別支援教育については、支援員や介護員を継続配置するとともに、町独自に作成した幼児期から使用できる「子ども・子育て支援ファイルすくすく」の活用を促進し、個別の指導計画や個別の教育支援計画の充実に努めます。

ふるさと教育については、「洞爺湖有珠山ジオパーク」や「北海道・北東北の縄文遺跡群」の入江・高砂貝塚を活用し、関係機関と連携した取り組みを進めるとともに、中学生による姉妹都市箱根町との親善交流や「洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル」を実施し、学校間、世代間交流の充実に支援します。

また、防災学習については、避難所開設体験学習や1日防災学校、噴火遺構の見学などを関係機関と連携して行います。

虻田高等学校については、虻高未来づくりフォローアップ活動推進委員会と連携し、これまでの支援を継続実施するとともに、地域連携特例校として洞爺湖町の特色を活かした魅力ある学校づくりのためのフォローアップ活動に取り組みます。

第4は、豊かな心と健やかな身体の育成です。

規範意識や基本的な倫理観、思いやりの心や豊かな感性など、豊かな心を育成するとともに、生涯を通じて健康に過ごすことができるよう、望ましい生活習慣の確立や健やかな心身の育成に努めます。

そのため道徳教育については、学校教育全体を通じて自己の生き方を考え、他者ととともによりよく生きていくための基盤となる道徳性を育む各学校の取り組みを引き続き支援します。

また、町が有する様々な教育資源を活かした芸術体験活動として、町内在住のバイオリニストによる演奏会を開催します。

いじめ、不登校、問題行動等については、学校、家庭、地域及び関係機関の連携により適切な対応に努めます。特に、いじめについては、「洞爺湖町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止及び早期解消に取り組みます。

また、不登校については、教育指導専門員や学校、そしてスクールカウンセラーなど関係者が連携してきめ細やかで柔軟な取り組みを進めます。

健康・体力の向上については、各学校の取り組みを支援するとともに、むし歯予防のためのフッ化物洗口事業を継続して実施します。

学校給食については、より一層の安全安心な給食提供に努めます。

また、給食を通して食に関する正しい知識や望ましい食習慣の育成、食品ロスの削減や食文化の伝承など食育の推進に努めます。併せて、地場産品を使った魅力ある給食を提供するとともに、食物アレルギー事故防止の徹底に努めます。

給食費につきましては、高騰する物価への対応として、本年度は一定額の補助を行うとともに、私会計から公会計方式への移行に向けた調査研究を行います。

老朽化した学校施設等については、施設長寿命化計画に沿い、年次的な改修を進めるとともに、児童生徒の学びに相応しい教育環境の在り方について、保護者や地域の方々の意見を踏まえながら検討を進めます。

学校給食センターについては、洞爺給食センターに統合し増改築するための基本設計を本年度実施します。

第5は、信頼される学校づくりの推進です。

子どもたちや地域の実情を踏まえ、学校においては、家庭・地域社会と連携を図りつつ、保護者や地域住民が学校運営に参画するなど地域に開かれ、地域とともにある学校づくりを進めます。また、地域の自然環境や人材などの教育資源を生かした特色ある学校づくりや、家庭や地域社会に信頼される学校づくりを推進します。そして教員については、子どもと正面から向き合い、子どもたち一人ひとりの成長に寄与できるよう、その指導力の向上に努めます。

そのため、地域全体で子どもたちを支える仕組みのコミュニティスクール(学校運営協議会)については、各協議会の活動を引き続き支援します。小・中連携教育については、乗り入れ授業などを引き続き実施するとともに、小中一貫教育制度の導入に向けた調査研究を行います。

教員の指導力の向上については、研修機会の確保や各種研修会への参加奨励に努めます。

また、教員の働き方改革については、時間外勤務の縮減に向けICTの活用により校務を支援する校務支援システムの導入を進めます。併せて、中学校の部活動については、「洞爺湖町立学校に係る部活動方針」に基づき取り組むとともに、地域移行に向けた協議を近隣市町と連携し、進めます。

第6は、地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進です。

核家族化、地縁的なつながりの希薄化などに伴う家庭や地域社会の教育力の低下を踏まえ、家庭と地域の結び付きを深め、地域全体で子どもを守り育てる機運を醸成し、家庭や地域の教育力の向上に努めます。

そのため、家庭教育支援の一環として、子どもたちの生活リズムの向上を目的とした「早寝早起き朝ごはん運動」の啓発活動や、7カ月健診時に絵本を提供する「ブックスタート事業」を実施するとともに、家庭教育に関する情報提供や親同士の仲間づくりの機会を提供する「子育てセミナー」を実施します。

通学路については、地域の方々や関係機関などで構成する洞爺湖町通学路等安全推進会議において検討し、引き続き安全確保に努めます。

また、交通安全教室などを通して危険を予測し回避する意識や能力を高めるとともに、防犯協会などの協力をいただき、地域で子どもを守り育てる体制づくりに努めます。

第7は、生涯学習社会の推進です。

生涯のいつでも、どこでも、自由に学習機会を選択して豊かに学び、文化に親しみ、スポーツを楽しみ、かつ、学んだ成果を生かすことのできる洞爺湖町らしい生涯学習社会の実現に向け、「第4次洞爺湖町社会教育中期計画」に基づき社会教育や文化・スポーツ活動の充実に努めます。

そのため、生涯学習の推進については、学んだ成果を生かせる学習機会の提供や自主的な学習活動の推進及び洞爺湖町の特性に対応した学習環境の充実と学習資源の活用にも努めます。

少年の学びについては、「洞爺湖GENKIDS」事業における自然・社会体験学習や異年齢・世代間の交流を通じ、コミュニケーション能力の向上や思いやりの心を育むとともに、各種事業を通じてリーダーの育成を図ります。4年ぶりに実施する友好都市香川県三豊市との交流事業「ふるさと・ふれあい・フレンドリーツアー事業」については、お互いの地域を訪れる子どもたちの交流を通じて両市町の友好関係が一層深まるよう取り組みます。

放課後児童健全育成事業(学童保育)については、子どもたちが楽しく、安心・安全に過ごせる環境の維持に努めます。

地域未来塾事業については、放課後に小中学生を対象としてICTを活用した学習機会を提供し、基礎学力の向上や学習習慣の定着を促します。また、ICT遠隔教育事業については、アイヌ政策推進交付金を活

用し、高等学校等への進学対策として、引き続き学校、地域と連携した取り組みを進めます。

成人の学びについては地域活動に必要な人材を育成するため、自主的、主体的に行う研修などの支援に努めるとともに、地域活動への参加や幅広い学習機会の提供を行い、交流の促進を図ります。

高齢者の学びについては、「いきいき学園」を中心に、学習意欲の高揚や知識の習得を図りながら、健康づくりや生きがいづくり、仲間づくりを進めます。また、高齢者の持つ長い人生経験、職業経験を地域で生かせるよう支援するとともに、少年事業との異世代交流を実施します。

次に潤いのある地域づくりを目指した社会教育の推進です。

読書活動については、「第3次洞爺湖町子どもの読書推進計画」に基づき、子どものみならず町民全体が読書に親しみ、感性を磨き、人生をより豊かに過ごせるよう、「読書の家」を中心に取り組みを進めます。読書感想画・読書紹介文事業については、関係団体の協力を得ながら継続して実施します。

また、男女共同参画社会の形成については、「洞爺湖町男女共同参画計画」に基づき講演会の開催や広報などを通じた情報提供を行うとともに、引き続き女性リーダー養成研修への派遣や地域における女性団体への支援に努めます。

地域とともにある学校づくりや学校を核とした地域づくりを推進する地域学校協働活動については、各学校運営協議会と連携しながら、学校支援ボランティアによる活動の促進を図ります。

芸術・文化活動の推進については、町内文化団体等との連携を図り、子どもから大人まで芸術文化に親しむ機会や優れた舞台芸術に触れる機会、各種サークルなどが日頃の活動成果を発表する機会の提供に努めます。

洞爺湖芸術館については、木彫作品の防虫対策を継続するとともに、専門家及び関係機関の助言等をいただきながら、所蔵作品の適正な保存管理及び事業実施に努めます。

文化遺産の保全・活用については、遺跡や郷土資料、伝統文化など、町内文化財に対する理解を深める機会の充実や文化財関係団体の育成と支援を行い、地域に根ざした文化の継承に努めます。

世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」については、入江・高砂貝塚を中心として引き続き周辺景観を含めた保全を図るとともに、関係自治体や町内関係団体と連携した活用を努めます。

入江・高砂貝塚については、老朽化した竪穴住居復元施設の修復を実施し、画像にコンピュータで情報を加えるARやインターネットを活用した展示ガイドなど、情報の発信と来訪者への利便性を高める取り組みを進めます。

入江・高砂貝塚館については、学芸員を常駐し、アプタ・フレナイの会を中心とした体験学習や講座等の開催、ガイドの育成と活動の充実など、来訪者への理解を深めていただけるよう努めてまいります。

虻田郷土資料館並びに洞爺郷土資料室については、地域ごとに特色ある収蔵に努め、適切な保存と展示に努めるとともに、学校教育と連携し、子どもたちが郷土の歴史に対する知識と理解を広げる活用を進めます。

町内の指定文化財については、適切な保存と活用を努めるとともに、町内3地区の獅子舞保存会の活動を支援します。

スポーツ活動の推進については、体育協会などの関係団体やスポーツ推進委員との連携の下で、スポーツを通じた仲間づくりや健康・体力の維持増進を図るとともに、多世代が楽しめるニュースポーツの普及活動や、町民のニーズに応えた各種教室を実施します。

社会教育施設及び社会体育施設については、「洞爺湖町公共施設等総合管理計画」を踏まえ、適正な維持管理を行い、誰もが安心して利用することができるよう努めます。

以上、令和5年度の主要な方針を申しあげました。

教育委員会といたしましては、直面する課題に全力で取り組むとともに、学校、保護者、そして地域を含め、教育を支える関係者の皆さまと連携を図り、子どもたちをはじめ、全ての町民の皆さまが、心豊かな生活を送ることができるよう、本町教育の充実に取り組んでまいります。

議員各位並びに町民の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

4 令和5年度の教育費等予算（当初）

（千円）

款	項	目	本年度	前年度	比較	増減の主な内容
民生費	児童福祉費		37,207	40,025	△ 2,818	
		児童福祉総務費	37,207	40,025	△ 2,818	施設型給付費負担金の減
	保育所費		150,751	127,567	23,184	
		保育所管理費	273	335	△ 62	
教育費		常設保育所費	150,478	127,232	23,246	新あぶた保育所建設実施設計業務等の増
	教育総務費		134,900	122,170	12,730	
		教育委員会費	1,726	1,620	106	
		事務局費	24,135	22,077	2,058	育英資金の基金積立金の増
		諸費	108,284	97,192	11,092	高校性通学等助成金等の増
		教員住宅管理費	755	1,281	△ 526	修繕料の減
	小学校費		74,755	62,230	12,525	
		小学校管理費	64,933	52,766	12,167	虻田小学校高圧機器更新工事等の増
		教育振興費	9,822	9,464	358	
	中学校費		103,803	65,284	38,519	
		中学校管理費	88,732	49,327	39,405	洞爺中学校高圧機器更新工事等の増
		教育振興費	15,071	15,957	△ 886	
	社会教育費		118,471	83,519	34,952	
		社会教育総務費	6,891	7,037	△ 146	委員報酬の減
		社会教育奨励費	8,719	7,790	929	地域未来塾用備品購入等の増
		社会教育施設費	90,479	57,495	32,984	母と子の館改修工事の増
		図書館費	4,625	4,631	△ 6	
		文化財費	7,757	6,566	1,191	入江貝塚復元施設改修委託料の増
	保健体育費		74,646	61,908	12,738	
	体育奨励費	1,782	1,859	△ 77	スポーツ事業費用弁償の減	
	体育施設費	12,574	11,856	718	燃料費の増	
	給食施設費	60,290	48,193	12,097	改修設計費、備品購入、給食費補助金の増	

●令和5年度の主な事業

事務事業名	予算額	概要
新あぶた保育所建設基本設計業務	6,076	新あぶた保育所建設基本設計委託業務
新あぶた保育所建設実施設計業務	6,838	新あぶた保育所建設実施設計委託業務
洞爺地区等高校生通学費等助成事業	9,160	高校への通学費、下宿等の助成金（補助対象を洞爺地区等から全町へ拡大）
中学校制服等購入助成事業	3,820	町立中学校制服等購入費助成金（新規事業）
虻田高等学校支援事業	6,582	虻田高等学校に対する生徒募集等支援（入学支援金、制服購入費の助成等）
保育所等の保育料等の完全無償化	—	保育所、幼稚園等の保育料、副食費及び一時預かり負担金の完全無償化（新規事業）
小学校管理事業	5,624	虻田小学校高圧機器更新工事
中学校管理事業	44,000	洞爺中学校高圧機器更新工事
文化財保存整備事業	5,500	堅穴住居復元施設補修
社会教育施設維持管理事業	29,000	母と子の館 屋根等改修工事
社会教育奨励事業	1,660	ICT遠隔教育事業 町内中学生を対象とした遠隔双方向ライブ授業の実施
社会教育奨励事業	2,024	地域未来塾事業の実施及びタブレット更新
学校給食センター統合事業	4,235	給食センター統合に係る基本設計業務委託料

II 学校教育

1 洞爺湖町立小・中学校一覧

学校名	住 所	電話番号	学級数		開校年月日
			普通	特別	
虻田小学校	栄町59-1	76-2015	6	4	明治17年9月26日
洞爺湖温泉小学校	月浦44-40	75-2476	4	3	昭和5年10月1日
とうや小学校	洞爺町59-7	82-5051	6	2	平成18年4月1日
小学校合計			16	9	
虻田中学校	入江190-8	76-2051	3	5	昭和22年5月23日
洞爺中学校	洞爺町401-14	82-5052	3	0	昭和22年5月1日
中学校合計			6	5	

2 児童・生徒数一覧

(令和5年5月1日現在) (名)

学校名		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
虻田小学校	令和4年度	24	23	23	26	25	39	160
	令和5年度	36	24	23	22	26	22	153
洞爺湖温泉小学校	令和4年度	3	10	5	7	5	6	36
	令和5年度	9	3	10	5	5	5	37
とうや小学校	令和4年度	8	15	8	10	9	10	60
	令和5年度	12	8	16	7	11	10	64
小学校合計	令和4年度	35	48	36	43	39	55	256
	令和5年度	57	35	49	34	42	37	254
虻田中学校	令和4年度	40	35	39				114
	令和5年度	45	39	37				121
洞爺中学校	令和4年度	5	14	12				31
	令和5年度	10	6	14				30
中学校合計	令和4年度	45	49	51				145
	令和5年度	55	45	51				151

3 学校紹介

虻田小学校

<校章>



雪の結晶を6つの「北」で表し、穏やかな内浦湾を象徴している。

北国の厳しさの中で、心豊かな人間形成に励む虻田小学校を表している。

所在地	洞爺湖町栄町59-1
TEL	0142-76-2015
校長名	横山 慎二 (令和5年4月赴任)
教職員数	18人(本務者)
学級数	普通 6学級 特支 4学級 (知的1、情緒3)
児童数	153名(内特支13名)

<沿革>

明治17年 7月 第一虻田小学校設立
 明治34年 9月 虻田第一尋常小学校に改称
 明治35年 5月 虻田第二尋常小学校を開設
 大正10年 3月 第二尋常小学校を統合し、虻田尋常高等小学校と改称
 昭和11年12月 新校舎が現在地に落成
 昭和22年 虻田小学校に改称
 昭和24年 3月 伊達高等学校定時制虻田分校併置
 昭和41年 4月 給食センター併設。学校給食開始
 昭和59年 9月 開校100周年記念式典挙行
 昭和61年11月 新校舎完成、校舎引渡し
 平成12年 4月 有珠山噴火に伴い「豊浦教室」「長万部教室」開設(4月17日～5月28日)
 平成22年 9月 中庭に「太陽光発電」設備設置
 平成24年 4月 フッ化物洗口開始
 平成26年10月 開校130周年記念集会・式典挙行
 平成29年 4月 病弱特別支援学級開設
 8月 高学年用机・椅子入替(新JIS規格)
 弱視特別支援学級開設
 平成30年 4月 難聴特別支援学級開設
 令和3年 1月 GIGAスクール構想に関わり、児童一人に1台のタブレット端末導入
 令和4年 4月 タブレット端末を活用した「オンライン授業」の本格的な実施

<虻田小学校の特色>

本校は、本町地区に位置し、町役場・洞爺駅に隣接している。明治17年に創立し、今年で139年目を迎える。

学校周辺には、噴火湾、有珠山、洞爺湖があり自然に恵まれており、本校では、生活科や総合的な学習の時間などを活用して環境教育やふるさと教育に力を注いでいる。

また、ICT機器やタブレット端末を積極的に活用して、個別最適な学びや協働的な学びを進めるなど、学力向上と学びの保障に取り組んでいる。

<令和5年度重点施策の取組>

◇学校経営の方針

「人とのかわりの中で、自己発揮できる力を育む：学校の最上位目標(10年後の姿)」
 ～自分らしさを発揮してしなやかに生き、幸せな人生を送る子供の育成を目指す～

◇学校経営の重点

- ①同僚性・協働性によるチーム力の向上と学校経営参画～個の成長・総合力の勝負・自分事に
- ②支持的風土に支えられた学級経営 ～いじめの未然防止・不登校の解消を導く[生徒指導]
- ③授業改善へのあくなき挑戦 ～児童の学力向上を実現する“実践的”校内研修の推進
- ④基礎基本に基づく特別支援教育の充実 ～的確な見取りとアセスメント・関係者の連携充実
- ⑤連携・協働体制の構築 ～家庭・地域・PTA・学校運営協議会・他校種・関係機関
- ⑥危機意識を高める安全教育の充実 ～対応力の向上・防災教育・問題行動への対応
- ⑦情報活用能力の育成 ～日常の端末活用モデルの構築と蓄積・格差の超越

※最重点は、②生徒指導 ③校内研修 ④特別支援教育。それを①チーム虻田小 で推進

洞 爺 湖 温 泉 小 学 校



<校 章>

外かくの六角形は「北」であり、二辺はそれぞれ「水」である。
 中の円は「山」であり、温泉である。
 中央は「洞」であり校名を表す。
 ※昭和21年2月11日制定
 北…風にも雪にもどんな苦しみにも
 負けない強い北国の子ども
 山…朝日・夕日に映える山のよう
 に、どんなことにも動じない、
 落ち着いた子ども
 洞…澄みきった湖水のように美しく
 清らかで心の豊かな子ども

所在地	洞爺湖町月浦44-40
TEL	0142-75-2476
校長名	柴田 暦 章 (令和4年4月赴任)
教職員数	16人(本務者)
学級数	普通 4学級(複式2学級) 特支 3学級(自・情)(知)(病・弱)
児童数	37名(内特支6名)

<沿 革>

昭和 5年10月 虻田温泉尋常小学校開校
 昭和22年 5月 洞爺湖温泉小学校に改称
 昭和43年 3月 新校舎完成
 昭和52年 8月 有珠山噴火
 虻田小学校を仮校舎とする
 昭和53年10月 大規模泥流により児童1名行方不明
 昭和57年 3月 災害復旧校舎完成
 平成12年 4月 有珠山噴火に伴い虻田小学校と合同で「長万部教室」「豊浦教室」開設
 8月 月浦地区に仮校舎完成
 平成14年10月 現在地に新校舎完成
 平成19年 4月 花和小学校を統合
 平成21年 4月 複式2学級開設
 平成26年 4月 複式2学級開設
 平成27年 4月 病弱学級開設
 平成30年 6月 コミュニティスクールの指定
 令和 3年 1月 GIGAスクール構想
 児童一人に1台のタブレット
 端末導入

<洞爺湖温泉小学校の特色>

「たくましさ、ゆたかさ、かしこさ」の学校目標の下、知徳体のバランスの取れた教育を目指し、小規模校の利点を生かしながら、異年齢集団の活動、小集団での学習、ICTを活用した学習等、一人一人に対応した、きめの細かい指導を行っている。

また、自然豊かな学習環境に恵まれた地域であることから、地域教材や人材を活用したふるさと教育、環境教育、安全教育にも力を注ぎ、SDGs・ESDの視点を取り入れ、児童の豊かな心を育む体験的な学習活動を数多く展開している。

<令和5年度重点施策の取り組み>

【学校経営の基本方針】

全ての子どもたちの可能性を引き出す学校づくりへの推進

【学校経営の重点】

●ふるさとに誇りをもち、主体的に生きる子どもの育成

【重点指導】

- (1) へき地複式校の特性を活かした学校経営、学年・学級経営に努める。
- (2) PDCAのマネジメントサイクルに基づいた教育課程の検証を行い、「確かな学力」及び「体力・運動能力」の向上を図る。
- (3) 感染防止対策や子どもたちの心身のケアに適切に対応しながら、心身ともに健全な児童の育成に努める。
- (4) 働き方に関する意識改革を進めるとともに、教員育成指標が示す資質能力を十分に備え、その能力が発揮できる職場環境の実現に努める。
- (5) 学校・家庭・地域社会・関係機関との密接な連携により、社会に開かれた学校づくり、地域とともにある学校づくりに努める。

と う や 小 学 校



<校 章>

花型の外形は、伝統ある四つの小学校が融合しての誕生を表す。

中は、校歌に歌われる「洞爺湖・老三樹・羊蹄山」で形成され、大地にしっかりと立ち、

未来に向けて両手を思い切り伸ばした姿を表す。

所在地	洞爺湖町洞爺町59-7
TEL	0142-82-5051
校長名	山下 文人 (令和3年4月赴任)
教職員数	18人(本務者)
学級数	普通 6学級 特支 2学級(自・情)(知)
児童数	64名(内特支6名)

<沿 革>

- ・洞爺小学校(明治25年開校)
- ・成香小学校(明治33年開校)
- ・香川小学校(明治33年開校)
- ・大原小学校(明治41年開校)

以上の4校が洞爺湖町発足時に統合し、平成18年4月に「とうや小学校」として開校。校舎は、旧洞爺小学校(昭和42年建設)を利用する

平成22年 北海道教育委員会委託事業

「食育推進事業」実践中心校

平成23年10月 管内教育実践奨励校 公開研究会

平成24年1月～ 教室窓枠改修工事

平成25年7月～ 校舎・体育館耐震化工事

平成29年 コミュニティスクール運用開始

令和 元年10月 体育館暖房設備設置

令和 2年 1月 児童用トイレ建具工事

令和 3年12月 北海道食育推進優良活動表彰

令和 4年 9月 北海道へき地複式研究大会胆振大会
ファーストステージ公開研究会

令和 5年 9月 北海道へき地複式研究大会胆振大会
ファイナルステージ公開研究会

<とうや小学校の特色>

児童数の減少から高台3校と下台1校を統合し、ひらがなの「とうや小学校」として開校18年目。温暖な地域であることから、花壇づくり・野菜づくり等の栽培活動を取り入れてきた。食育を積極的に進め、食に関する指導では保護者や地域生産者の協力を得て、本物に触れる中で食に対する正しい知識と望ましい食習慣の形成を図っている。

家庭も地域も、学校に対して愛情が深く、また、教育活動に極めて協力的である。児童は落ち着き、挨拶も大変よく、きまりを守る心や態度がしっかり身に付いている。

<令和5年度の重点課題> (学校経営方針)

『一人一人が目的をもって チャレンジして 元気に通う学校』

子どもも教職員も心身ともに健康であり、一人一人がそれぞれの志をもちながら、学校という空間の中で楽しく日々を過ごしてもらいたい。自分はどうなりたいか・どうありたいか、今自分は何のために努力するのか等、自分に問いかけて、自分と向き合いながら、失敗を恐れず勇気をもってトライする姿、失敗しても新たな気持ちで再トライする姿が見られる学校(児童集団・教職員集団)でありたい。

<重点課題達成に向けた手立て>

○学習や生活に、自分はどうでいたい、どうありたいかを問いかけ、目的意識や課題意識をもたせる。

○教師や級友からの信頼と励まし等により、自尊感情や挑戦する力を高める働きかけを行う。

○心身の健康維持を図る取組を実践させる。

虻田中学校



<校章>

三枚の柏木の葉」は心身ともにすくすくと健やかな成長を願う。「三本のペン」は学問に励み、知識と教養を身につけて欲しいという願いを表す。

所在地	虻田郡洞爺湖町入江190
電話	0142-76-2051
校長名	鈴木 恭朗 (令和5年4月赴任)
教職員数	18人(本務者)
学級数	普通3学級 特支5学級(知、情2、病、難)
生徒数	121名(内特支12名)

<沿革>

昭和22年5月	虻田中学校開校
昭和25年1月	現在地に新校舎一期工事完成
昭和26年2月	2期工事完成
昭和42年3月	鉄筋2階建校舎完成(1線校舎)
昭和49年12月	新校舎完成
昭和52年8月	有珠山噴火避難住民受入
平成9年11月	創立50周年記念式典
平成12年4月	有珠山噴火のため、豊浦中と長万部中に「虻中温中合同仮設教室」開設
9月	本校舎で授業開始
平成21年7月	校舎・体育館一部改修工事
平成25年3月	1階階段手摺付け工事
平成25年10月	蛍光灯破損によるPCB飛散事故
平成25年11月	PCB飛散事故による除染作業と虻田高校校舎借用
平成26年12月	職員室・理科室・2年教室・体育館耐震化工事
～27年10月	
平成29年(～平成31年)	北海道教育委員会ほっかいどう学力向上推進事業「授業改善等支援事業」拠点校
平成30年6月	コミュニティ・スクール運用開始
令和3年1月	GIGAスクール構想、生徒1人1台タブレット端末の導入

<虻田中学校の特色>

- 校舎は内浦湾が広がる高台にあり、校区には、令和3年7月27日にユネスコの世界遺産に登録された北海道・北東北の縄文遺跡群の入江貝塚と高砂貝塚がある。
- 地域教材や人材を活用したふるさと教育や有珠山洞爺湖ジオパークを題材とした防災学習を展開している。
- 少人数指導、基礎力アップコンテスト、放課後の補充学習等、創意工夫して学習指導を展開している。また、部活動も盛んで、運動系と文化系の4部が活動している。

<令和5年度重点施策の取り組み>

【経営方針】 組織的な学校運営による質の高い教育活動の推進

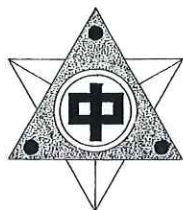
- (1) 組織力の向上……教育目標の実現を目指した組織的な取組
- (2) 学習指導力の向上…主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- (3) 生徒指導力の向上…発達を支える生徒指導の充実

【経営の重点】

- (1) 組織的な学校運営と業務の工夫・改善による校務の推進
- (2) 創意工夫ある教育課程の編成と教育活動の推進
- (3) 学年・学級経営、特別支援教育、生徒指導の充実
- (4) 教職員の専門性や指導力を高める研究・研修の充実
- (5) 家庭や地域、洞爺湖町内の学校と連携した「地域とともにある学校づくり」の推進
- (6) 危機管理体制の強化と危機管理意識の高揚
- (7) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の推進

洞 爺 中 学 校

＜校 章＞



三角形は「真理」を表し、
2個重なる「六稜星」は雪の
結晶と洞爺湖の外輪山をイメ
ージ。中央の同心円は洞爺湖
を表し、「中」は洞爺開拓に

まつわる「三樹の教え」を象徴している。

所在地	洞爺湖町洞爺町401-14
Tel	0142-82-5052
校長名	西村 雄一 (令和4年4月赴任)
教職員数	12人(本務者)
学級数	普通 3学級
生徒数	30名

＜沿 革＞

昭和22年5月 洞爺中学校開校(洞爺小に併置 成香分校・富丘分校)
昭和23年3月 富丘分校独立
昭和24年4月 成香中学校独立
昭和25年2月 新校舎新築落成
昭和44年1月 寄宿舎新築落成
昭和48年4月 富丘中統合(スクールバス運行開始)
昭和56年4月 成香中統合
昭和57年1月 新校舎新築移転 同年11月 体育館完成
平成14年度 文科省「豊かな体験活動推進地域」推進校指定(14・15年度)
平成17年度 胆振教育研究所委託・村教研研究指定校
平成24年度 胆振教育研究所委託・町教研研究指定校
平成29年度 コミュニティスクール運用開始・開校70周年
平成30年度 胆振教育研究所委託・町教研研究指定校
令和4年度 北海道ふるさと教育観光教育等実践協力校
令和5年度 北海道ふるさと教育観光教育等実践校
胆振教育研究所委託・町教研研究指定校

＜洞爺中学校の特色＞

本校は、洞爺湖畔に面し緑豊かな自然に恵まれた教育環境にある。生徒たちは専業農家の多い高台地区と会社員・自営業・公務員の多い下台地区に住み、高台地区からはスクールバスで通学している。保護者や地域住民は本校への愛着も強く、教育活動には極めて協力的である。また、勤勉な保護者の姿を見ている生徒たちの学習意欲は高く、学校においても組織的に学力向上を図る取組が行なわれている。

また、総合的な学習の時間では、地域の有珠山洞爺湖ジオパークを題材とした自然体験学習、防災学習を展開している。

＜令和5年度重点施策の取り組み＞

【学校経営の基本方針】

- すべての子どもに「確かな学力」を育み、「安心感」を生み出す教育活動の創造
 - ・4つの視点①自己存在感の感受を促進する②共感的な人間関係を育成する③自己決定の場を提供する④安心、安全な居場所づくりに配慮した授業づくりにより「親和的な学習集団」の精度を高める。
 - ・端末持ち帰りによる授業改善により、自主・自律した生徒を育成し学力向上を図る。
- すべての子どもに「豊かな心」を育み、「健やかな体」を育成する教育活動の創造
 - ・個々の教員が生徒の些細な変化を見逃さない「指導眼」「観察眼」の伸長を図るとともに全教職員がSC、GKとしての自責を持つ職場風土を醸成する。
 - ・目指す姿の「可視化」、目指す行動の「態度化」による、目指す生徒像の育成を図る。

【今年度の重点課題】

- 向上心を持ち、主体的に粘り強く学び合う生徒の育成
- 心身を鍛え、自主的・自律的な生活を送る生徒の育成
- コミュニケーションスキルを高め、適切に自己を表現し、お互いを高め合える生徒の育成
- 「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・改善
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- 障害のある生徒の自立や社会参画を促す特別支援教育の充実
- 生徒一人一人を大切に、共感的人間関係を築く生徒指導の充実

4 特別支援学級在籍状況

(名)

	令和4年度(5月1日現在)							令和5年度(5月1日現在)						
	知的	肢体	病弱	情緒	弱視	難聴		知的	肢体	病弱	情緒	弱視	難聴	
虻田小	1	—	—	15	—	—		3	—	—	10	—	—	
洞爺湖温泉小	3	—	1	3	—	—		3	—	1	2	—	—	
とうや小	—	—	—	4	—	—		2	—	—	4	—	—	
虻田中	3	—	1	6	1	1		1	—	2	8	—	1	
洞爺中	1	—	—	1	—	—			—	—		—	—	

5 就学援助状況

○受給対象者数

令和5年5月1日現在 (名)

	区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
小学校	要保護	1	—	—	—	—	4	5
	準要保護	10	7	8	7	9	8	49
	特別支援	5	3	5	2	2	4	21
中学校	要保護	2	—	2				4
	準要保護	12	8	5				25
	特別支援	5	3	3				11
合計	要保護							9
	準要保護							74
	特別支援							32

6 育英資金

○洞爺湖町育英基金貸付

1. 育英資金の種類

育英資金の種類 区 分	奨学資金貸付金 (月額)	入学時一時金 貸付金	入学時給付金
高等学校・中等教育学校(国公立)	12,000円以内	200,000円以内	80,000円
高等学校・中等教育学校(私立)	12,000円以内	300,000円以内	80,000円
高等専門学校	15,000円以内	300,000円以内	80,000円
専修学校・大学(短大含む)	21,000円以内	500,000円以内	150,000円

2. 対象

- ①奨学資金貸付金 …… 保護者等が洞爺湖町に住所を有し、勤勉かつ素行善良な学生(高校生・大学生) (※学生本人に対し、毎月一定額を貸付)
- ②入学一時金貸付金…… 学資金貸付対象の学生をもつ保護者
(※保護者を対象に、入学時に係る準備資金として貸付)
- ③入学時給付金…… 保護者等が洞爺湖町の住所を有し、学業が優秀かつ素行善良で家計で学費を支出することが困難な学生

※1世帯で奨学資金貸付金、入学時一時金貸付金及び入学時給付金の育英資金を重複して利用可能。

3. 貸付等条件

(1)奨学資金貸付金及び入学一時金貸付金(返還必要)

- ①親権者等の世帯所得が基準以下(生活保護世帯基準の1.3倍以下)
- ②貸付金は原則無利子
- ③貸付期間は、正規通常修学期間以内
- ④貸付期日 ・奨学資金貸付金……毎月
・入学一時金貸付金……原則入学月の前月末

(2)入学時給付金(返還不要)

同居の世帯員全ての収入の合計金額が基準以下(生活保護世帯基準の1.3倍以下)
(令和元年度入学者より世帯全員の所得金額を基準とする)

4. 貸付金返還

- ①奨学資金貸付金 …… 貸付期間終了の6ヶ月後から修業年限の2倍の期間内に返還
※返還期間中において、借受者本人の収入が250万円以下、又はその見込みである者
※返還期間中において、借受者本人が非正規雇用の雇用形態である者、又はその見込みである者
上記2つの※印のいずれかに該当する場合の奨学資金貸付金の返還にあつては、令和3年4月1日以降に返還すべきとして計画していた返還金の月額額の2分の1(1円未満切り捨て)の額を免除する。
- ②入学時一時金貸付金 …… 貸付期間終了の6ヶ月後から就業年限に相当する期間内に返還

5. 新規貸付件数の推移

令和3年度			令和4年度		
学資金(奨学資金貸付金)	入学一時金貸付金	入学時給付金	学資金(奨学資金貸付金)	入学時一時金貸付金	入学時給付金
3件	2件	6件	0件	0件	5件

7 その他の支援状況

○特別支援教育支援員等の配置状況(令和5年度当初)

(名)

区 分	虻 田 小 学 校	洞爺湖温泉 小 学 校	と う や 小 学 校	虻 田 中 学 校	洞 爺 中 学 校
特 別 支 援 教 育 支 援 員	2	1	—	1	—
学 習 員 支 援 員	2	—	—	1	—
特 別 支 援 学 級 介 護 員	3	1	1	1	1
ス ク ー ル カ ウ シ セ ラ ー	1				

8 学校給食

洞爺湖町の学校給食は、未来を担う児童・生徒の心身の健全な発達に必要な学校給食摂取基準を満たした栄養バランスのとれた給食提供を行い、体位向上のみならず、正しい食事のあり方やマナー、食の知識や望ましい食習慣の形成に努めています。また、食を通じた学習として、選んで食べる楽しさや自分にあった必要量を学ぶ事を目的に、セレクト給食を実施しています。この他、学校では食育の一環として、地元生産者や食品業者の方の授業を行い食への関心・理解を高め、地場産品の大切さ郷土愛心を育むよう努めるとともに、保護者向け試食会を行い給食への理解を深める行事を行っています。また、食物アレルギーによる喫食事故を未然に防ぐべく、学校生活管理指導表に基づき、誤飲、誤食のない安心で確実な食物アレルギー食に対応した給食(除去食・代替食・代替飲料)を提供しています。衛生管理面に関しては、道保健所の現地指導の他に、HACCP(ハサップ)の衛生管理運用の徹底に努め、児童・生徒へ安心・安全な給食提供を図るとともに、1食当り主食(米飯又はパン、めん類)+1汁2菜を概ねの基本内容として、副食についても地場産品の野菜、水産物の使用に努めながら、できるだけ加工食品に頼らない手作りとするなど学校給食内容の充実に努めています。

給食センターの概要

名 称	虻田給食センター	洞爺給食センター
所 在 地	泉 43 番地 15	洞爺町 416 番地 5
電 話 番 号	76-2672	82-5563
建設年月日	昭和 59 年 11 月	平成 12 年 12 月
建 物 面 積	400 m ²	750.94 m ² (内給食センター392.66 m ²)
厨 房 面 積	240 m ²	200 m ²
構 造	鉄筋コンクリート造	鉄骨造
調 理 能 力	800 食	300 食

給食対象学校数及び人数

(令和5年4月1日現在) (名)

区 分	学校数	児童・生徒数	教員他	小計	給食センター	合 計
小学校	3	252	56	308		308
中学校	2	146	34	180		180
その他	1	10	3	13	10	23
計	6	408	93	501	10	511

給食内容

区 分	給食費(円)	主 食	
	1人1食当たり	米 飯	パン・めん類
小学校	260	週3回～4回程度	週1回～2回程度
中学校	300		

児童・生徒 1 人当たりの学校給食摂取基準

区分	熱量 (kcal)	蛋白質 (g)	鉄 (mg)	脂肪 (%)	カルシウム (mg)	塩分 (g)	ビ タ ミ ン				食物 繊維 g
							A (IU)	B1 (mg)	B2 (mg)	C (mg)	
小学校	650	13～20	3.0	25～30	350	2.0 未満	220	0.40	0.40	25	4.5
中学校	830	13～20	4.5	20～30	450	2.5 未満	300	0.50	0.60	35	7.0

Ⅲ 教育・保育施設等

1 町立保育所

保育理念

- 1 子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を守ります。
- 2 子どもにとって“最もふさわしい生活の場”となるために「ふれ合いのある保育所」「安心して子どもを預けられる保育所」づくりに努めます。
- 3 子どもが「自分を大切にする、みんなを大切にする、自然を大切にする」温かい心を養い、心身共にすこやかに成長するよう応援します。

保育目標

- 1 よく食べ、よく遊び、よく眠る、健康な子ども
- 2 思いやりと感謝の気持ちを持つ子ども
- 3 感動や喜びなど、豊かに表現できる子ども
- 4 自然に親しみ、働くことに喜びを感じる子ども

保育内容

春から秋にかけては戸外遊び・散歩・リズム運動等を取り入れ、薄着・はだしで身体づくりを行っている。さらに、秋から冬にかけては創造性の育つ遊びを組み入れ、一人ひとりが意欲的に活動し、仲間を思いやる心を育てている。

保育（開所）時間

常設保育所	平日・土曜	保育標準時間	午前 7 時 3 0 分～午後 6 時 3 0 分
		保育短時間	午前 8 時 3 0 分～午後 4 時 3 0 分

施設の概要

	保育所名	建設年次	構造規模	各教室
常 設	本町保育所 TEL 76-2673 昭和 43 年 2 月 27 日認可	平成 9 年 4 月	鉄筋コンクリート造 581. 62 m ²	事務室1、遊戯室1、乳児室1、 保育室4、調理室1
	入江保育所 TEL 76-4317 昭和 51 年 4 月 1 日認可	昭和 60 年 4 月	鉄骨ブロック造 732. 50 m ²	事務室1、遊戯室1、乳児室1、 保育室3、調理室1
	桜ヶ丘保育所 TEL 75-2088 昭和 44 年 4 月 1 日認可	平成 14 年 3 月	鉄筋コンクリート造 525. 07 m ²	事務室1、遊戯室1、乳児室1、 保育室4、調理室1
	洞爺保育所 TEL 82-5559 昭和 44 年 4 月 1 日認可	平成 31 年 3 月	木造 509. 49 m ²	事務室1、遊戯室1、保育室2、 多目的室2、調理室1

保育所入所児童状況

(令和5年5月1日現在)

保育所	定数	年 齢 区 分 等(名)							合計
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	障がい児	
本 町	60		2	8	9	2	10	0	31
入 江	90		6	6	6	12	7		37
桜ヶ丘	60	4	5	3	3	5	2		22
洞 爺	35	0	5	7	9	6	7		34
広域受託 (上記外数)		0	0	0	1 (入江)	0	1 (入江)		2
計	245	4	18	24	28	25	27	0	126

●保育所におけるその他事業

【一時預かり保育事業】⇒ 本町保育所、桜ヶ丘保育所及び洞爺保育所の3カ所で実施

対象児童:離乳食を完了している満1歳以上の教育保育施設へ入所していない児童

受入児童数等:各保育所ともに1日2名まで受入れ(1人当たり1ヵ月12日まで利用可)

利用日及び時間:月曜日～土曜日 午前8時30分～午後4時30分 ※1ヵ月12日まで

利用料:町民無料 ※町外利用者は1時間250円 給食利用:1食200円

2 子育て支援センター

●本町保育所に併設。(平成9年4月開設)

保育所等入所前の幼児及び保護者を対象に下記の事業を行っている。

令和5年度事業計画

事業名	回数等	会 場	内 容
保 育 所 開 放 事 業	85 回	各常設保育所 (本町・入江・桜ヶ丘・洞爺)	時間:10:00～11:30 各保育所を交替で開放 水曜日(本町・入江・桜ヶ丘及び洞爺保育所) 保育所児童とのふれあいや保護者の保育所理解を促す
親子ふれあい遊び事業	20 回	地域交流センター、洞爺ふれ愛センター他	時間:10:00～11:30 5月～3月(4月は休み) 各月1回程度開催 親子が一緒になって各種行事や季節感のある遊びを通して、子どもの発達とかかわりを学ぶ
子 育 て 相 談 事 業	通年	子育て支援センター	育児不安等、子育ての様々な相談への対応
子育てセミナー (子育て教室)	6 回	健康福祉センター「さわやか」、洞爺ふれ愛センター他	6ヶ月から3歳(未就園児)までの子どもを持つ保護者及び妊婦を対象に、子育ての情報提供や様々な講座をとおり、子どもの望ましい心身の発達を促す関わり方の知識を深める。また、自主的な仲間づくりを促進する

3 私立幼稚園

学校法人おおぞら学園 とうやこ幼稚園

とうやこ幼稚園は、子ども・子育て支援制度に基づく施設型給付の幼稚園です。

特色・特徴

1. 広い芝生の園庭で身体を思いっきり動かして遊ぶ
2. 野菜の栽培、収穫などを通しての食育や体力作りの積み重ねで丈夫な身体を育てる
3. 自分の事は自分で行う子、他の人のことを考えて行動する子、最後まであきらめない子を育てる

定員

80名

保育時間

月曜日～金曜日 午前9時00分～午後2時00分

預かり保育（とうやこ幼稚園利用児童のみ）

午前8時00分～通常登園まで 100円

通常降園～午後5時00分まで 100円／1時間

<夏休み・冬休み>

午前8時00分～午後5時00分まで 100円／1時間

キララクラブ（就園前クラス）

対象 2歳の未就園児・保護者

実施日 1回／週

入会料 1,500円

月額経費 3,000円

年間諸経費 1,000円

幼稚園解放

対象 幼児・保護者

実施日 10回／年

費用 無料

IV 社会教育

1 令和5年度社会教育推進事業

(1)家庭教育の主な事業

事業名	実施時期	内 容	開催場所	備 考
早寝早起き朝ごはん運動	7月～8月 12月～1月	子どもたちの健やかな成長のため、生活リズムの向上を目指す。		
ブックスタート事業	4月～2月	生後7か月の乳児を対象に健診時に絵本の読み聞かせや本の贈呈を行う	健康福祉センター他	
子育てセミナー	7月～1月	子どもの成長と発達、遊びや親子関係など講師から学び、情報交換、仲間づくりの場となるよう支援	さわやか	

(2)少年の学びの主な事業

事業名	実施時期	内 容	開催場所	備 考
とうや湖GENKIDS	7月～2月	小学4年から中学生を対象に、体験活動を通じて主体的に考え行動できる力を育てる	縄文まつりや洞爺湖中島ウォーキング、冬の散策の集いなど	
放課後児童健全育成事業	通 年	(令和5年4月1日時点) 風つ子 21名 洞爺湖クラブ 17名 とうや児童クラブ 36名	地域交流センター内、温泉小学校内、洞爺生いがい交流センター内	定員 40名 定員 20名 定員 20名
第27回ふるさと・ふれあい・フレンドリーツアー	(受入) 8月25～28日 (訪問) 11月24～27日	友好都市(香川県三豊市)との小学6年生の相互交流事業	町内 香川県三豊市内	
地域未来塾	常設 (通年)	小中学生を対象に地域住民等の協力による学習支援の実施	あぶた母と子の館、洞爺総合センター	
ICT 遠隔教育事業	8月～2月	東大生による、高校受験に向けた学習事業	ウトウラノ、洞爺総合センター	
洞爺湖町少年の主張大会	6月5日	各中学校から代表3名、計6名による弁論大会	洞爺湖町役場	町青少年健全育成連絡協議会主催
少年の主張胆振地区大会	7月19日	洞爺湖町少年の主張大会において、最優秀賞受賞者(1名)が参加	むろらん広域センタービル	胆振総合振興局主催

(3) 成人・高齢者の学び・自主学習と人づくりの主な事業

事業名	実施時期	内 容	開催場所	備 考
洞爺湖町二十歳のつどい	1月7日	新しい門出をお祝いする二十歳のつどいの開催	洞爺湖町役場	
いきいき学園(高齢者大学)	通 年	60歳以上の町民を対象として、生きがいのある多様な学習活動の実施	町内(一部町外)	
人づくり育成事業	通 年	地域社会を担う人材を育成し、本町の地域活性化に繋げる事業	—	

(4) 読書活動の推進の主な事業

事業名	実施時期	内 容	開催場所	備 考
読書感想画・読書紹介文募集事業	10月～11月	図書施設等の図書を利用して感想画・紹介文を募集し、読書活動の推進を図る。		洞爺湖ロータリークラブとの共催
読み聞かせ等サークル支援事業	4月～3月	読み聞かせサークル「ピノキオ」、「絵本の玉手箱」、「人形劇チポリーノ」による読み聞かせや人形劇の開催。	あぶた読書の家、母と子の館他	
北海道日本ハムファイターズ読書促進全道キャンペーン	7月26日～8月20日	図書館を利用する児童数の増加、貸出冊数の増加を図る。		

(5) 男女共同参画計画の推進の主な事業

事業名	実施時期	内 容	開設場所	備 考
講演会(きずな学級)	10月以降	男女共同参画計画を推進するための講演会・研修等を開催	洞爺湖町役場	
洞爺湖町男女共同参画計画の推進	通 年	様々なテーマにより男女を問わず、学ぶ機会とする講演会や啓発グッズの作成	洞爺湖町役場	
胆振女性リーダー養成研修	未 定	男女共同参画社会の担い手となる人材を養成する派遣事業	未 定	

(6) 地域学校協働活動の推進の主な事業

名 称	実施時期	内 容	開催場所	備 考
学校支援地域本部事業	通 年	地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進		
学校支援ボランティア活動推進事業	通 年	町民が培った豊富な経験、知識及び技術・技能を学校支援ボランティアとして登録し、積極的な活動を図る	各小中学校	

(7)文化の振興の主な事業

事業名	実施時期	内 容	開催場所	備 考
団体の組織強化と事業の活性化に向けた支援	通 年	一般町民、芸術文化団体等関連団体の文化祭などの活動支援		
洞爺湖芸術館管理運営事業	4月1日～ 11月30日	常設展、ワークショップの開催。また、所蔵作品の保存管理の適正化を図るための事業	洞爺湖芸術館	
役場ロビー展	通 年	町内の個人・団体の作品展 絵画・書画・写真・花・盆栽・人形など、町民の身近な作品発表の場として役場ロビー展を開催	洞爺湖町役場 ロビー(本庁ロビー)	
美術見学旅行	9月以降	美術館・博物館等	町外	

(8)文化財の保存・活用振興の主な事業

名 称	実施時期	内 容	開催場所	備 考
入江・高砂貝塚保存整備事業	8月以降	入江貝塚公園竪穴住居復元施設改修の実施	入江貝塚公園	
文化財ウォークラリー	7月1日	「洞爺湖町アイヌ語地名マップ」を用いて、アイヌ語由来の地名を散策。町の文化財を知ることで郷土史への理解を深める。	町内	健康づくり推進委員会との共催、とうや湖GENKIDS合同事業

(9)世界文化遺産の保存と活用の主な事業

事業名	実施時期	内 容	開催場所	備 考
世界遺産普及・活用推進事業	4月～3月	世界遺産について理解を深めるよう、研修会等を実施	入江・高砂貝塚館他	
子供の縄文遊びフェスタ in とうや湖	5月5日	縄文文化に親しんでもらい理解を深めてもらうため子どもの日に開催	母と子の館	洞爺湖レクリエーションクラブ共催
とうや湖縄文まつり	7月16日 7月17日	縄文講演会、縄文演奏会、もの作り体験など	入江・高砂貝塚館、高砂貝塚公園	
とうや湖世界遺産講座	9月～3月	世界遺産や入江・高砂貝塚に関する講座	入江・高砂貝塚館	

文化財防火デー	1月	火災時の避難訓練を通じ、有事の対処法や防火、文化財保護に関することを学ぶ	入江・高砂貝塚館	
町内学校と連携した考古学講座	5月～11月	町内の各学校を対象にした縄文文化の講話、体験学習、課外学習など	町内各学校、入江・高砂貝塚館他	

(10)健康づくりスポーツ活動の推進の主な事業

事業名	実施時期	内 容	開催場所	備 考
アウトドアスポーツ	8月	自然と親しむとともに自由研究のテーマにするなど、洞爺湖町の自然を学ぶ	洞爺湖中島	観光振興課 ジオパーク 推進課共催 協力:いきものいんく
とびうお水泳教室	7月～8月	小学生を対象に水に親しみ、基本的な泳法の習得を目的に実施する。	洞爺湖町プール	協力:とうや湖水泳協会
スポーツ教室	7月～11月	モルック教室・クロスミントン教室・ヨガ教室	あぶた体育館他	
スポーツ体験会(スポーツまつり)	10月	モルック・クロスミントン体験会の実施	あぶた体育館	
初心者スキー教室	1月～2月(4回)	小学校1～4年生を対象とした初心者向けのスキー	ルスツリゾート	協力:スキー連盟
町民冬の散策の集い	2月	スポーツの普及を図るため、スノーシューの体験を実施する。	財田自然体験ハウス	

(11)洞爺湖町内指定文化財

指定区分	種別	名 称	指定年月日	説 明
国	史跡	入江・高砂貝塚	昭和63年 5月13日 平成14年 3月19日 平成14年12月19日 平成23年 9月21日	縄文時代前期～晩期(約 5,000～2,500 年前)につくられた貝塚、竪穴住居跡、墓跡が見つかっている。縄文時代の暮らし、精神文化、埋葬の変遷を知る上で貴重。
道	有形文化財	入江馬頭観世音碑	平成 4年 3月31日	文化元年(1804 年)、官営牧場を幕府に建議し、裁可を得て翌文化2年(1805 年)6 月 5 日「有珠虻田牧場」の開場式を行う。牧場創立を記念し、馬の加護を祈って福井政之助と村田卯五郎が願主となり、馬頭観世音碑を建立する。

道	有形文化財	入江貝塚出土品	平成26年3月31日	入江貝塚出土の縄文時代骨角牙貝製品。北海道における先史時代の狩猟、漁撈活動や装身文化など、その生活実態を具体的に知ることができる資料であり、学術的な価値は極めて高い。
町	無形民俗文化財	月浦獅子舞	昭和44年 9月20日	明治 33 年月浦神社建立を機に、香川県神田に伝わる獅子舞を取り入れて始められた。18 の舞で構成されている。
町	史跡	入江馬頭観世音碑群	昭和55年10月 3日	入江馬頭観世音碑(道指定)の周囲には明治以降も50基の碑が立てられた。
町	史跡	大磯馬頭観世音碑群	昭和55年10月 3日	文政5年(1822 年)の有珠山噴火は、村田卯五郎をはじめとする100名前後の人たちが死亡。牧場の多くの馬も焼失、父母や大勢の牧場関係者が死亡した。その他、崖から転落死した馬も多くあったと伝えられている。2代目小太郎(初代小太郎の長男、長太郎)が牧場関係者や馬の追善と供養を祈ってこの碑を建立したと思われる。
町	有形文化財	史跡入江・高砂貝塚9号環状列石出土の遺物	平成15年 8月26日	縄文時代晩期。環状列石に掘られた穴の中から土偶と土器3点が出土し、土器にはベンガラや魚骨貝殻片が入れられていた。周辺には同時期の墓址も数多く見つかっていることから、墓前祭祀を行っていたと考えられる。
町	無形民俗文化財	曙獅子舞	平成 2年 6月 8日	明治 22 年に香川県から湖畔・曙地区に入植し、獅子舞が持ち込まれた。現在までほぼ姿を変えずに継承されている。
町	有形文化財	洞爺村移住開拓記録「岩倉日誌」	平成 9年10月13日	岩倉三代吉氏が明治20年に香川県から北海道移住を受け、昭和2年に死去するまで書きつづられた開拓記録日誌
町	無形民俗文化財	香川獅子舞	平成17年 9月30日	明治 36 年香川地区に移住した人たちにより香川県財田に伝わる獅子舞を導入して始められた。

(12)その他社会教育事業

事業名	実施時期	内 容	開催場所	備考
とうや湖町民カレッジ事業	通 年	生涯学習の普及・啓発を推進するために「とうや湖町民カレッジパスポート」を交付。社会教育事業に参加すると1ポイント付与 (10ポイントたまると500円の図書券を交付)		

2 社会教育関係施設概要

【虻田ふれ合いセンター】

〔沿革〕

昭和59年4月設置

〔施設概要〕

所在地	本町58番地3
電話番号	76-2046
開館時間	午前9時～午後9時
休館日	12月30日から翌年1月5日
建設面積	894.88㎡ 一階644.76㎡ 二階 250.12㎡
敷地面積	1,503.13㎡
構造	鉄筋コンクリート造り2階建
施設内容	ホール 研修室 調理実習室 和室
〔利用対象者〕	町民及び町外者
〔利用状況〕	(R2) 7,287人
	(R3) 6,684人
	(R4) 7,437人



【あぶた母と子の館】

〔沿革〕

平成2年10月設置 体育館は昭和53年建設（平成元年譲渡）

〔施設概要〕

所在地	高砂町44番地2
電話番号	76-2937
開館時間	午前9時～午後9時
休館日	毎週金曜日 12月30日から翌年1月5日
建設面積	体育館 996.86㎡ 研修室等 292.19㎡
敷地面積	27,000㎡
構造	体育館・鉄骨造り 研修室・木造
施設内容	体育館 研修室
〔利用対象者〕	町民及び町外者
〔利用状況〕	(R2) 6,570人
	(R3) 6,530人
	(R4) 8,349人



【あぶた読書の家】

〔沿革〕

昭和56年2月設置

平成23年11月 リニューアルオープン

〔施設概要〕

所在地 栄町63番地

電話番号 76-2100

開館時間 午前10時～午後4時30分

休館日 毎週木曜日 12月30日から翌年1月5日

建設面積 313.88㎡

構造 木造

施設内容 書架 一般閲覧室 幼児・児童閲覧室 蔵書数 28,382冊

〔利用対象者〕 町民

〔利用状況〕 (R2) 利用者数 1,918人 貸出数 4,660冊

(R3) 利用者数 2,366人 貸出数 5,623冊

(R4) 利用者数 3,487人 貸出数 6,976冊



【みずうみ読書の家】

〔沿革〕

昭和57年 4月設置 洞爺湖温泉町131の旧国立公園管
理事務所を改修

平成4年 4月 洞爺湖温泉町142-154へ新築移転

平成12年 3月 有珠山噴火の被害を受け休館

平成12年12月 旧火山科学館へ移転設置

平成21年 3月 サミット記念館に併設しリニューアルオープン

〔施設概要〕

所在地 洞爺湖温泉142番地154

開館時間 午前10時～午後3時

休館日 毎週木曜日 12月30日から翌年1月5日

施設内容 一般閲覧室 蔵書数 8,859冊

〔利用状況〕 (R2) 利用者数 878人 貸出数 1,552冊

(R3) 利用者数 1,260人 貸出数 147冊

(R4) 利用者数 2,240人 貸出数 442冊



電話番号 76-2100

構造 鉄骨造り 175㎡

〔利用対象者〕 町民

【虻田郷土資料館】

〔沿革〕

昭和52年4月 洞爺湖温泉町に設置（旧一三ボウリング場を改修）

平成12年3月 有珠山噴火の被害を受け休館

平成16年4月1日設置（旧虻田町教育委員会庁舎を改修）

〔施設概要〕

所在地	高砂町44番地
電話番号	76-5801
開館時間	午前9時～午後5時
休館日	毎週月曜日、冬期間（12月1日から3月31日）
建設面積	257.63㎡
敷地面積	1,984.5㎡
構造	木造
施設内容	常設展示室（明治以降の民俗・写真資料）
〔利用対象者〕	町民及び町外者
〔利用状況〕	(R2) 948人
	(R3) 4,579人
	(R4) 7,544人



【入江・高砂貝塚館】

〔沿革〕

平成10年4月27日設置

（旧虻田高校校舎跡地→母と子の館サブグラウンド）

令和3年7月21日 リニューアルオープン

〔施設概要〕

所在地	高砂町44番地
電話番号	76-5802
開館時間	午前9時～午後5時
休館日	毎週月曜日、12月30日から翌年1月5日
建設面積	478.36㎡
敷地面積	971㎡
構造	（展示室）鉄筋コンクリート造り平屋一部2階、（体験学習室）木造平屋
施設内容	常設展示室 体験学習室
〔利用対象者〕	町民及び町外者
〔利用状況〕	(R2) 176人 ※展示改修及び増築工事実施
	(R3) 4,547人
	(R4) 8,383人



【入江・高砂貝塚公園】

〔沿革〕

平成10年4月27日供用開始（入江貝塚）

令和 3年7月21日供用開始（高砂貝塚）

〔施設概要〕

所在地 入江190番地31他

電話番号 76-5802

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 毎週月曜日

冬期間（12月1日から3月31日）

建設面積 貝塚露出展示施設（63㎡）、

竪穴住居復元施設（37㎡）、トイレ（31㎡）

敷地面積 65,485.9㎡

構造 貝塚露出展示施設（鉄筋コンクリート造り）

竪穴住居復元施設（木造）

トイレ（木造）

施設内容 国指定史跡



【あぶた体育館】

〔沿革〕

昭和51年12月設置

〔施設概要〕

所在地 高砂町18番地

電話番号 76-4641

開館時間 午前9時～午後9時

休館日 毎週月曜日 12月30日から翌年1月5日

建設面積 1,517.84㎡ アリーナ820.12㎡

構造 鉄骨造り

施設内容 アリーナ プレーイングルーム 格技室（柔道場） 男女更衣室

〔利用対象者〕 町民及び町外者

〔利用状況〕 (R2) 12,627人

(R3) 12,587人

(R4) 15,209人



【洞爺湖町プール】

〔沿革〕

平成元年12月設置

〔施設概要〕

所在地 栄町63番地4
 電話番号 76-5020
 開館時間 午前9時～午後9時
 休館日 10月1日から翌年5月31日
 建設面積 840.20㎡ 水面積400㎡
 構造 鉄骨造り
 施設内容 一般用25m×13m 低学年用15m×3m
 幼児用10m×3m

〔利用対象者〕 町民及び町外者

〔利用状況〕 (R2) 0人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により未開設
 (R3) 0人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により未開設
 (R4) 1,413人



【学校水泳プール】

〔沿革〕

昭和47年7月13日設置

〔施設概要〕

所在地 洞爺町132番地1
 電話番号 82-5111
 開館時間 午前9時～午後9時
 休館日 9月16日から翌年6月19日
 建設面積 1,031.66㎡ 水面積400㎡
 構造 鉄骨造り
 施設内容 一般用25m×13m 低学年用15m×3m
 幼児用10m×3m

〔利用対象者〕 町民

〔利用状況〕 (R2) 0人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により未開設
 (R3) 0人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により未開設
 (R4) 0人 ※未開設



【虻田テニスコート】

〔沿革〕

平成14年6月設置

〔施設概要〕

所在地 高砂町44番地2
 電話番号 76-2937 (母と子の館)
 (休館日は入江・高砂貝塚館)
 開館時間 午前9時～午後9時
 休館日 12月1日から翌年3月31日
 敷地面積 160m²
 構造 オムニコート
 施設内容 テニスコート2面 夜間照明9基 駐車場

〔利用対象者〕 町民及び町外者

〔利用状況〕 (R2) 559人
 (R3) 408人
 (R4) 520人



【洞爺総合センター】

〔沿革〕

昭和51年8月31日設置

平成19年3月19日一部改修

〔施設概要〕

所在地 洞爺町132番地
 電話番号 82-5111
 開館時間 午前9時～午後9時
 休館日 12月30日から翌年1月5日
 建設面積 1,829.48m²
 敷地面積 5,319.99m²
 構造 鉄骨造り
 施設内容 集会室 和室 大会議室 小会議室 青年研修室 調理実習室

〔利用対象者〕 町民及び町外者

〔利用状況〕 (R2) 2,990人
 (R3) 4,151人
 (R4) 7,847人



【洞爺湖芸術館】

〔沿革〕

平成20年4月設置（旧洞爺村役場を改修）

〔施設概要〕

所在地 洞爺町96番地3

電話番号 87-2525

開館時間 4月～11月 午前9時30分～午後5時

休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）

12月1日から翌年3月31日

建設面積 527.92㎡

1階325.86㎡ 2階202.06㎡

構造 木造

施設内容 洞爺村国際彫刻ビエンナーレ作品、砂澤ビッキ彫刻作品 並河萬里写真展示及び文学書籍の展示

〔利用対象者〕 町民及び町外者

〔利用状況〕 (R2) 2,419人

(R3) 2,404人

(R4) 5,153人



洞爺湖町の教育

発行年月 令和 5 年 7 月

発 行 者 洞爺湖町教育委員会